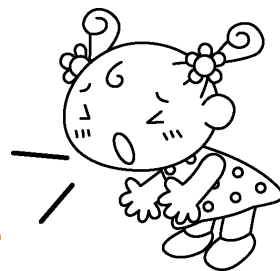




喫煙しないことが一般的な社会習慣となることを目指して、世界保健機関(WHO)が平成元年から5月31日を「世界禁煙デー」と決めました。今回は、禁煙についてのお話です。

世界禁煙デー



受動喫煙に関わる副流煙は、喫煙者自身が吸う主流煙よりも健康被害が大きいことが知られています。

子どもが受ける健康被害は大人以上に深刻で、その危険は妊娠中からすでに始まっています。

子宮内発育遅滞、乳幼児突然死症候群、咳・痰・息切れなどの呼吸器症状、気管支炎、肺炎、中耳炎などのリスクが高くなります。

また、成人になってからも胎児からの受動喫煙の影響が続き、肥満、糖尿病、メタボリックシンドロームなどの関連があることもわかってきました。

家庭内で継続的に受動喫煙にさらされている子どもは、数学や読解力が低下するというデータも報告されています。

直接目の前で喫煙していなくても、喫煙者の髪や衣服などに残ったたばこのにおいを吸い込むことも、サードハンドスモーク（三次喫煙）と呼ばれ悪影響があると指摘されています。



たばこの煙から子どもを守りましょう。

